

第57回経済産業省契約等評価監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	令和8年2月3日(火) 経済産業省別館2階235会議室	
委員	委員長 梶川 融 (太陽有限責任監査法人 会長) 委員 梅野 晴一郎 (長島・大野・常松法律事務所 弁護士) 委員 金子 良太 (早稲田大学大学院会計研究科 教授) 委員 川澤 良子 (Social Policy Lab株式会社 代表取締役) 委員 藤居 俊之 (東京科学大学物質理工学院 教授)	
議事	以下の議題について議事を執り行った。 1. 個別基金事業における事務局の設置【個別審議事項】 2. 調達実績及び公共調達に係る直近の動向【報告事項】	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

意見・質問	回答
<p>議題1. 個別基金事業における事務局の設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当課室から、議題1について説明を行った。委員から出された主な意見・質問は以下のとおり。 <p>【審議案件1】 基金事業の件名：コンテンツ産業成長投資支援事業 基金造成額：29,290,000,000円</p> <p><委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本芸術文化振興会（以降、芸文振）は、これまで能や文楽といった古典芸能の分野で活動しているが、アニメ、実写等のコンテンツ分野についてのノウハウはあるのか。 ・民間に国際的な配信プラットフォームの運営を委託する場合、事業の根幹的な業務は芸文振で行う必要があるが可能なのか。現在の体制・ノウハウに対し、どのように補強し基金設置法人としての役割を果たしてもらおうのか。 ・基金を管理しているチームの現在の人数や、出向等を含めてどのような形で人材を拡充し、基金事業のハンドリングができる 	<p><文化創造産業課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年前に内閣官房成長戦略事務局において、人材育成から作品製作・海外展開までを一体的に進めるべき、という声が産業界からあったことを受け、芸文振に継続的にノウハウを蓄積している段階にある。文化庁ではすでに、アニメ・ゲーム分野の人材育成事業を実施しており、海外でのビジネスを構築するプロデューサーを育成するという観点では、今回の事業における海外展開にも関連すると考えている。産業界のニーズも取り入れつつ人材育成のカリキュラムを作成し、ノウハウを徐々に統合している。 ・芸文振において基金の管理をするチームが存在し、基金を運営するという中で、人材育成から製作・展開までを一体的に担えるような体制構築をお願いしており、民間企業から出向していただく等の取組も行っている。こうした取組を行うことで、現時点では完全でなくとも、今後は人材育成から製作・展開まで一体的に進めることが可能だと考えている。 ・これまで数十人規模で対応していたところに、さらに数十人を増員する方向で検討している。ただ、その人数で十分かどうか、人手

<p>ようになるのか、具体的に教えて欲しい。</p> <p><委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸文振にノウハウが蓄積されたとすれば、現在の事務局が担っている役割が不要になり、民間の力を借りずとも、芸文振がこれから単独で基金設置法人としての役割を担うことを計画しているのか。 ・芸文振はそもそも海外展開のノウハウをもってないため、基金を切り分けて海外展開を専門とする基金法人を新たに設けた方がよいのではないか。また、海外展開だけ出来るのであれば、民間に直接委託してしまうほうが効率的ではないか。 ・事務局のノウハウを吸収していく方向であることは理解。他方、基金設置法人としてもっと長期間事業を行ってもらう方が芸文振の発展にもなるため、事務局のノウハウが全て芸文振に吸収されて終わることを目標にすべきだと考える。 <p><委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・独法側と事務局の双方で事務局経費が発生するため、独法側と事務局の両方を合わ 	<p>不足の中で採用が計画通り進むか、といった点は注視する必要がある。事業を進めながら整備を進めている部分もあるが、場当たりのにならないよう、全体像を描きながら対応したいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁の事業において、人材育成に加えて、ビジネス化の手前の文化の国際発信を実施していることから、海外展開の事業が経済産業省の事業に限られているわけではない。その上で、理屈上では、ノウハウが蓄積されれば事務局は不要になる。 ・課題として、1つ目は、基金が積まれている期間において、どこまでノウハウを蓄積し、基金設置法人として新たな基金を積む際に、今までのノウハウが活用できるか、については不断の確認が必要である。2つ目として、コンテンツ分野は、事業を個別に実施した方が効率的になる一方、個別に実施することで事業全体の一貫性が保てなくなる、というトレードオフが存在しており、産業界等から一元的に対応するべきとの声が寄せられている。これらを踏まえ、足元においては、基金事業として統合的に進めていく。その上で、事務局含め政府からも、芸文振自身がノウハウを蓄積するよう要請し、基金事業を運営していく方針である。 ・事務局の費用としては約 300 億に対して 5～10%より低い金額での効率的な形での運営
--	--

<p>せた金額を教えてください。</p> <p>・約 300 億規模の基金事業であれば、今後金利が上がった際には、その運用益で事務局の費用を賄える可能性があるのではないかと。</p> <p><委員></p> <p>・文化庁と経済産業省が基金を設置しているため、国民から見ると、両者がそれぞれ基金を積み増し、事務局を公募しており、わかりにくい構造になっているのではないかと。統合するのであれば、予算編成の段階から分かりやすくすべきではないかと。</p> <p>・事務局についても、将来の人材育成の在り方について考えていく必要がある。公募する際に、単なる事務局運営の方法だけでなく、人材育成をどのように考え、自立していくために何が必要なのか、という内容を提案の中に求めてもよいのではないかと。現段階における政策的に必要な人材像を示した上で、採択審査時の評価に反映すべきではないかと。</p> <p>・民間側も必要な人材像を踏まえて提案内容を考える必要がある。政策側での議論と、現場で求められる人材の実態を踏まえた提案をすることが必要であり、政策側との対話が重要である。</p> <p><委員></p> <p>・人材育成は大事なポイントである。ぜひ自律的な民間の有能な才能を発掘し育成す</p>	<p>を想定しており、芸文振側の人件費等含め、全体の管理コストを適切に管理したいと考えている。</p> <p><会計課></p> <p>・多くが定期預金で運用されており、研究開発系で運用期間が長いものは国債・債券でも運用している。今回の基金事業については芸文振の意向もあるが、すぐに支出されるものであれば、金利があまり見込まれないため、運用益としては見込めない状況。</p> <p><文化創造産業課></p> <p>・将来的には統合することを考えているが、現時点においては分割発注をしない限り事業が実施できないのが現状。国民目線では一体的な運用が求められている点は理解した上で、政府レベルと独法レベルだけではなく、事務局についても縦割りにならないようしっかり対応したいと考えている。</p> <p>・必要な人材像については、現在の検討課題になっている。現在、コンテンツ分野における官民投資ロードマップを考えており、どの分野や職種の人材が不足しているのか、人材需要をどのように描くべきか、文化庁と連携しながら、政策的に検討している。</p> <p>・民間側とは対話させていただいている。</p>
--	--

<p>るプロジェクトを描いてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な配信・流通プラットフォームは、Netflixと伍していくような日本のプラットフォームを作るのか、それとも、既に出上がった国際的なプラットフォームを利用しつつ拡充する方針か。 ・非常に重要な分野だと考えるので、ノウハウ等も集めていただいた上で事業をうまくやってほしい。 <p><委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のノウハウの蓄積状況は、ぜひ原課でモニタリングを行ってほしい。事務局自身にノウハウがたまることは想定しておらず、基金設置法人に事業全体のつくり込み等のノウハウを蓄積していくという理解してよいか。 ・基金設置法人の今後の充実を期待する。 <p>【審議案件2】 基金事業の件名：新事業進出・ものづくり商業サービス補助事業</p> <p><委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請者にとっては、補助金の構成が変わったことで、既存の設備がどの補助金で支援されていたのかが分かりにくくなる懸念がある。そのため、募集要項などで分かりやすく周知していく必要がある。 ・応募者、審査側ともに審査の効率化が重 	<ul style="list-style-type: none"> ・Netflixのような配信サービスもある一方、日本企業が保有する中規模の海外向けプラットフォームも成長している。これまでは作品ごとに翻訳やプロモーションを行ってきたが、翻訳やカルチャライズ、海外向けのプロモーション、漫画とアニメの相互誘客などをまとめて行う取組を進めている。よって、群れをなして群となれば伍することができるのではないか、ということが政策の仮説となっている。 ・そのように進めていきたいと考えている。 <p><イノベーションチーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者にとって分かりやすい、応募時に迷わないような設計を心がけている。 ・審査の効率化に向けたAI活用のために、申
---	---

要である。今後もかなりの件数を採択していく上で、事務手続を効率化するだけでなく、採択の方法自体も考えていくべき。

<委員>

・本事業について、事務局を設定することは理解している。他方、コロナ期には急遽大規模事業が立ち上がり、事務処理能力が問われた反省から、中小機構以外にも事務局業務を請け負える民間事業者を育てていく必要があり、今回の事務局が固定化されているように見えることは望ましくない。これを踏まえ、今、事務局として見込まれている企業が何社存在し、何社応募があると見込んでいるか。

<委員>

・付加価値額や年平均成長率といった基本要件について、単なる申請要件なのか、それとも達成状況のチェックが行われるのか教えてほしい。また未達成の場合にサンクションやロールバックのような措置があるのか、加えて、その確認業務が事務局への委託業務の範囲に含まれるのか教えてほしい。

請者側に過度な負担とならないよう留意しつつ、情報の取得範囲を拡大している状況。採択審査について、外部審査委員による審査結果がベースになることは変わらないが、AIを使って審査に必要な情報の集約や整理を行い、審査の高度化ができるか、不断に検証、見直しをしていきたいと考えている。

・民間企業側にも人手不足の課題があり、大規模事業の運営経験や体制を持つ事業者は限られている。そのような中においても、競争原理を働かせて、コスト削減させることができるかが重要。資料提供依頼・意見募集の中で、いろいろな事業者とコミュニケーションを取って、なるべく手を挙げていただけるよう努力している。公募前の段階で具体的な応募件数はまだ不明だが、複数社から関心を示していただいております、最適な事務局を選びたいと考えている。また、中小機構においても事務局業務の経験も溜まっているため、知見を生かしつつ、効率的な運営とコストの低減に努めたいと考えている。

・基本要件はあくまで応募時点での最低要件であり、事業計画毎に目標を立てた上で補助金を受け取ることになる。その後、通常3～5年の事業計画の中で、売上や付加価値、賃上げ等の実績を、毎年「事業化状況報告」として提出していただく。その内容を回収、確認することが、事務局および基金設置法人の業務となっている。また、例えば賃上げについては非常に重視しているため、未達の場合、未達分を返還していただく要件を課している場合が多い。他方、新ビジネスへのチャレンジは、失敗し赤字になることもあるため、国庫返納を免除する場合もある。付加価値についても同様に、計画を上回る場合もあれば、下回る場合もあるため、未達をもって

<p>・基金設置法人として生産性向上や賃上げにどのような要素が重要だと考えているのか、また、基本方針のような考え方はあるのか、その方針が外部有識者にも共有された上で審査が行われているのか、確認したい。政策目的に合致する形で、基金設置法人として果たしている役割について、説明をお伺いしたい。</p> <p>・賃上げや生産性向上の水準を設定するだけでなく、その実現に必要なプロセスはどこで検討しているのか。産業分野ごとに整理をしているのか。</p> <p><委員></p> <p>・ビジネスモデルの転換については審査が難しく、採択率が 30%しかないため、不採択者からの不満が多くなる補助金だと考える。そのため、第三者委員会を立ち上げることや審査基準の明確化等ノウハウや、人的ネットワークができた結果、基金は数年間続く一方で、事務局は現実的に毎年は変えられないのではないか。現実的に毎年事務局を公募していても、参入を求めるのは難しいため、基金の設置年度全体でコストを抑える方法はないか。</p>	<p>即時国庫返納していただく設計にはしていない。</p> <p>・政府として、賃上げや生産性向上は非常に重要であるため、予算要求時点において、要件設定について財務当局と相談しつつ、水準を定めている。基金設置法人は水準を達成できているかどうか確認を行う。採択審査に当たっては、実現可能性の高い事業計画になっているか、机上の空論になっていないか等を、中小企業の経営に詳しい先生方に確認いただく形で審査している。</p> <p><会計課></p> <p>・賃上げ目標に至るプロセスは一つではなく、ものづくり補助金による付加価値向上や、省力化補助金による効率化等がある。事業毎にプロセスの合理性を説明し、企業ごとい合理的な計画が立てられる仕組みになっていると考えている。</p> <p><イノベーションチーム></p> <p>・必ずしも毎年事務局を変える必要はないが、本事業のように制度が大きく変わる場合は、改めて設計や体制を組み直す必要があるため、再公募を行うこととした。また、時々政策的な要請に応じて制度を変えなければいけない場合についても、事務局を選び直す可能性がある。事務局を継続することにはメリット・デメリットがある。事業者にとっては手続が変わらないほうが良いため、変更時には不満が生じることもあるが、慣れてもらうことでそれらを前提として対応いただける。そうしたバランスを見極めながら、事業運営を行っていく必要がある。</p> <p><会計課></p> <p>・不採択者への説明責任は中小機構が負うべきであり、事務局は窓口対応や FAQ 等で回答するが、審査判断の根拠は継続的に中小機構</p>
---	---

<p>議題 2. 調達実績及び公共調達に係る直近の動向について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から、議題 2 について説明を行った。委員から出された主な意見・質問は以下のとおり。 <p><委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料調達の官公需について、どのように評価するのか。 <p>・新聞で、大企業がスタートアップから試作品を購入する際、費用の半額を補助する制度を導入すると報じられていたが、現在どのように運営されているのか。</p> <p><委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・価格交渉や価格転嫁について、事業者側としては、一度契約した反面価格を上げる交渉を行いにくい事情もあると思われるため、行政側からスライド条項が使える場合の周知を徹底すべきではないか。 <p><委員></p>	<p>側に蓄積していく必要がある。こうした前提のもと、中小機構にノウハウを溜めつつ、事務局は効率的な運営を行うものと理解している。</p> <p><会計課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来は価格競争による調達を行っていたが、今回は災害協定の内容を提出してもらい、随意契約で選定する方式を採用する方針。協定内容や油槽所の保有、配送体制、アクセスルートなどを総合的に勘案して決定するもの。 ・スタートアップから調達することは重要だが、必ずしもスタートアップからの調達を無条件に推進すべきとはならず、個別の政策目的の中でスタートアップを推進すべきと考えているため、引き続き議論していきたい。 ・経済産業省においてもビルメンテナンス事業者と対話を行ったところ、人件費上昇の負担が明らかになり、追加措置を講じた。単年度契約でも期中の対話は重要と考えており、今後も実施していきたい。 ・また、中小企業庁は受注側企業への対応状況をアンケートで集計し、10 社以上から回答があった発注者については、価格交渉や転嫁の状況が公開される仕組みとなっており、価格転嫁への取組が透明化されるようになっている。
---	--

<p>・少額随意契約の基準額が約 50 年ぶりに引き上げられ、今の物価を踏まえても業務効率化に良いことだと思う。ただ一方で、引き上げにより分割発注が行われやすくなり、特定の業者への発注が偏る可能性もあるため、内部監査を徹底することが重要である。</p> <p><委員></p> <p>・庁舎・ビルの契約見直しでは、人件費の賃上げに帰着しているか確認することが重要。請負契約だと、価格の確認調査はできないと思うが、賃上げを踏まえた予算措置の場合には確認する等の丁寧な対応は必要。</p> <p>その他</p> <p>事務局から、次回の契約等評価監視委員会について報告を行った。</p> <p>(了)</p>	<p>・内部監査を機能させないと、会計検査院から指摘を受け、信頼が損なわれ、制度改正を行った財務省にも迷惑をかけることになるため、しっかり対応していきたい。</p> <p>・「中小企業者に関する国等の契約の基本方針」では、事業者から、人件費が上がった、という説明を受け、請負契約の内容の変更について協議の申出があった際には、発注者は誠実に協議に応じなければならないとされている。また、コストの実勢価格に変化が生じた場合には、契約金額を変更する必要があるか否かについて検討し、契約変更の実施も含め、適切に対応することとされており、合理的な範囲で丁寧な対応が求められている。</p>
--	---